



SENRI KINRAN
UNIVERSITY

千里金蘭大学

学報

〒565-0873 吹田市藤白台 5-25-1 TEL06-6872-0673 (代)

巻頭エッセイ

地域に学ぶ

教養教育センター長 寺口 瑞生

私が大学に入学したのは一九七四年、今年入学された学生さんとはちょうど四〇年の開きがあります。紆余曲折を経て大学教員となってから二五年、すでに四半世紀が経過しました。学生の皆さんにとって二五年という歳月は（大半の方には）未体験ゾーン、しかし、当人からすれば「へー、そうなんや」という程度のもので、ではこの四半世紀、いったい何をしていたのか、簡単に言えば「地域に学ぶ」活動を続けているのです。

学部時代は哲学専攻であったのですが、二〇代最後の年に思い立って別の大学院へ、農村社会学の研究を始めました。「書齋派」から「フィールド派」への転身です。もちろん、従来の学説史をフォローすることはどんな分野においても不可欠ですから、修士時代の大半は研究書の精読・乱読に多くの時間を費やします。しかしその学説の大半は、積年のフィールド調査によって得られたデータ・知見から成り立っています。それ故、書齋での読書であれ、それはフィールド調査の方法論を吸収する

ことにつながるのです。

博士課程を終える年に、地方の大学にポストを得ました。ここから、紀伊半島の山村・農村・漁村、過疎地域とのつきあいが始まります。なぜ研究対象が過疎地域なのか、それは高齢社会の「先進地」であるからです。日本全体が超高齢社会に突入している現在、過疎地域に行けばさらに二〇年後の日本社会の姿が見られます。近未来の姿が顕在化している地域の生活実態を調べることで、問題解決の糸口を探ろうとするのです。

私の調査地の一つに、三重県熊野市湯谷地区があります。坂の上にある集落の入り口にバス停がありますが、そこには毎週水曜日に二本のバスが



来るだけ。大半は老人の単身世帯、ここへ研究仲間やいろんな大学の学生たちを案内して、フィールドワークの手ほどきをしています。過疎化・高齢化・限界集落、都会発の単語に慣れきった学生たちは、その生活実態の驚くほどの明るさ・多様さに驚きます。もちろん、問題は山積しています。しかし、書齋の資料だけではどうも想像できない地域生活の一端に触れることが、若い学生たちに相当強いインパクトを与えることは、毎年の調査報告書が物語っています。

まもなく授業が終わると夏休み、今年は関東・中部・関西の十大学の参加者を得てフィールドへ出かけます。サルやイノシシ、シカとともに暮らすばあちゃん・じいちゃんの話、興味ある方は「社会貢献論」の教室へぜひお越しください。

オープンキャンパスの日程

- ・7月20日(日) 10:00~15:00【学び体験プログラム(実験・実習体験)】
- ・8月2日(土) 10:00~15:00【学び体験プログラム(実験・実習体験)】
- ・8月17日(日) 10:00~15:00【学び体験プログラム】
- ・9月7日(日) 10:00~15:00【在学生トーク・推薦入試対策】
- ・10月13日(月・祝) 10:00~15:00【授業見学】

※詳細は、入学センターまで。

日々のキャンパス

4月から6月にかけての学内の動きの中から、いくつかのトピックスを報告していただきます。

4月24日(木)

インターンシップ説明会

学生支援センター・キャリアサポート課主催による「インターンシップ説明会」を開催しました。キャリアサポート課からは、インターンシップとは?という導入部分から、その目的や種類、応募方法等の全般的な説明を行ったほか、岩谷先生にお越しいただき、本学の教養教育科目である「インターンシップ」の概要や実施時期等についてもご説明いただきました。当日は授業の合間を縫って、生活科学部2年生ならびに3年生の学生59名が参加してくれました。現3年生(2016年3月卒業予定者)より、就職活動時期が後る倒しとなり、企業にとっては選考期間が短縮されることから、採用に備えてインターンシップによる学生受け入れが増加することが予想されま

学生のみならずとは、従来の就職活動スケジュールが参考にならないといった不安もあるかと思いますが、インターンシップを通じ「働く」ことを経験して進路を考える材料にするなど、その機会を有効活用してください。

キャリアサポート課では、進路に関する相談等を常時受け付けているほか、専門の講師をお招きし、就職活動に向けた準備セミナー等を随時開催しています。「就職」だけでなく、みなさんの「仕事や職業を含めた、自分らしい生き方」をサポートしていきますので、いつでもお気軽にキャリアサポート課を利用してください(キャリアサポート課)。

5月8日(木)

学内献血



大阪府赤十字血液センターからの依頼により、学生サポート課から本学の学生及び教職員の皆様に献血のご協力をお願いすることになりました。実施に向けてポスターの掲示や、斉送信メールで事前にご連絡はしたものの、どれだけの方にご協力していただけたのか心配でしたが、当日は77名の方が受付に来てくださいました。

実際に採血する前に氏名や住所の登録を済ませ、血液検査をして採血が可能かどうか確認していただくのですが、貧血や低血圧などのため採血ができない方が意外に多く、結局献血ができた方は35名でした。人数としては決して多くはありませんでしたが、大阪府赤十字血液センターの担当者方には「献血についての啓蒙活動ができたので大変意義のあることでした」と喜んでいただきました。

また献血した方にはお礼として可愛いお菓子の詰め合わせが渡され、学生たちも喜んでいました。血液検査の結果も後日自宅に郵送して

6月11日(水)

教育研究講演会 「発達障害について」

ただけるので、自分たちの健康管理に関心を持つきっかけになるのではないのでしょうか。

大学祭の二日目である10月26日(日)にも献血車を派遣していただき、二度目の献血のご協力をお願いする予定ですので、どうぞよろしくお願い致します(学生サポート課)。

大学のFD活動の環として、島崎学長の紹介で大阪大学医学系研究科保健学専攻の永井利三郎先生をお招きして、発達障害児(学生)への支援についての講演会を実施しました。教員、職員他にも学生も加わって、約90名の参加があり盛会でありました。

文科省の統計によると、特別な教育的支援を要する生徒(学生)の割合は、約10%位だそうです。通常の学習方法での学びが不得意である学生にとっても、分かりやすい方法で、教育を受ける権利を保障されなければなりません。

我々教員が、日常の学生の教育に当たって、他の学生と比べてなんだか「気になる」とか「ちよつと違う」学生に接することはよくあります。しかしそんな時、我々はそれらの学生がみんな発達障害の学生として見るかというところで、普通の学生のうちのちよつと反応の遅い学生とか理解度の低い学生と思ってしまう、指示したことができないときすぐに強い言葉を発してしまいます。そんな時、そういった障害を

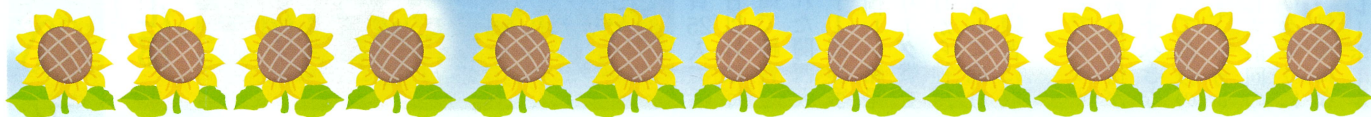
持つ学生は大きく落ち込んでしまい、そのあと授業について来れなくなってしまうということです。

そういった学生には、個別に適切な介入が必要ということですが、食物栄養学科や看護学科のように、卒業時に国家試験を受けることを目標とした学科での講義や実験、実習では、個別に指導することはほとんどできないのが現状です。団体やグループでの教育、指導を行っている中で、発達障害を持つ学生かそうでない普通の学生かの判断をして、教員が即座に正しい行動を取れるかという、それは難しいことでもあります。講演の中には、「理想の指導者の行動のとり方」の話もあり、教育現場で障害を持つ学生に対しての教員がどのように行動の取り方を変えていくかを考えるうえで、大いに参考となるものでありました。

私自身にとりましても、「気になる」、「ちよつと違う」学生を支援することは、優しくすることではなく、自立を支援することという言葉は、自分のこれまでの行動の変えるべき方向が見えたように思いました(兒玉成教授)。



部 局 便 り



食物栄養学科

前期が始まりはやくも3ヶ月がたちました。食物栄養学科でも学生の動きが活発になってきました。1年生は90分という講義の長さにも慣れ、専門科目の内容も少しずつ学習し実験実習にも親しんできたところです。また、2・3年生は1年生で学んだことに加えてさらにいろいろな専門科目が加わり、実験実習のバリエーションも増えてきて、管理栄養士に必要な知識を積み重ねています。さらに、4年生は春休みに行われた臨床栄養学や給食経営管理分野の臨地実習を振り返り、その内容のまとめをしておいた点、足らなかつた点を考えてさらにスキルアップをはかる時期です。また、管理栄養士国家試験対策を行う特別演習も始まり、今までの知識の理解度を確認しています。

さらに先日6月15日のオープンキャンパスでは3人の卒業生がきて仕事の内容について話をしてくれました。2人は病院で主に栄養指導をしています。また、もう1人は細胞培養の手法を用いて再生医療の仕事に携わっています。管理栄養士の主な仕事のひとつは栄養指導であり、これ以外にも大学で得た知識を生かしてさまざまな仕事に取り組んでいると話ではきいていても具体的に日々どのようにしているのかという内容を聞く機会はなかなかないので、高校生やその保護者も興味深くきいてくれました。これを機会に後輩がふえていくとよいですね(實寶智子教授)。

児童学科

平成26年度、児童学科は8期生として新入生50名を迎え、総員193名でスタートしました。「大学生生活に慣れよう!友達をたくさん作ろう!」を目的に新入生宿泊研修を4月5、6日に行いました。入学期の不安を取り除き、金蘭でのスムーズな大学生活のスタートを期待して行っています。桜が満開の京都・亀岡の烟河で、楽しみながら参加し、十分成果が上がったと思います。また、この折にリーダーとして参加した13名の在学生は、「ウェルカムパーティー」の主催、カプラ研修の参加を通して先輩としての意識を持つて行動することを学ぶよい機会となりました。

6月に入り、幼稚園実習が始まりました。30名の4年生が参加しています。2年生はインターンシップについて準備、3年生は8月の保育実習を控え、調整をしています。7月以後のオープンキャンパスでは教育支援人材認証プログラムもスタートします。8月2日のオープンキャンパスの午後、学科主催の「あそびのひろば・夏」では、「しあわせの黄色いうちわ」を作るイベントを行います。児童学科だけでなく他学科の学生さん、先生方にもご参加いただき盛り上がりしたいと思いますのでよろしくお願いたします(中島保子教授)。

看護学科

看護学科は88名の新入生を迎え、平成26年度のスタートを切りました。大学生生活の第一歩として、1年生は4月4、5日の1泊2日で箕面観光ホテルでの宿泊研修に参加しました。

この研修では、志を同じくして入学した学友との仲間づくりの機会を得るとともに、大学生としての自覚を持ち、自律への道を歩み始める新入生のために企画された「大学生活スタートアップマナー講座」を受講しました。社会に通用する職業人、医療人となるためのマナーやモラルを学び、「挨拶トレーニング」では、何気なく行っていた「挨拶」の重要性を改めて認識し、相手に伝わる「挨拶」を体得したようです。講師の方からは、みな真剣に取り組んでおり、大きな気づきと高い意欲、そしてお互いに協力し合う姿がとても印象的だったと高い評価をいただきました。

また、研修ファシリテーターとして活躍した上級生たちも、その成長を実感させてくれました。この研修での経験や学びは、その後に学内で出会った彼女たちの「おはようございます」という輝く表情での挨拶にあらわれているようです。そして、7月から始まる初めての臨地実習である「早期体験実習」においても必ず活かされることと期待しています(山中純瑚教授)。

教職支援センター

【4月】教職支援センターとキャリアサポート課の連携のもと、公立保育士幼稚園教諭を目指す学生を対象とした公開模試(PSES)を実施しました(26日)。

【5月】小学校教員採用試験の願書出願も終わり、1次試験が目前の時期、全国模試(東京アカデミー)を学内実施しました(17日)。また今年度は大阪府教育委員会人事課の方に来校していただき、大阪府教員採用試験の新制度の概要説明会を実施しました(13日)。1~4年生の多くの参加者がありました。

【6月】土曜日を利用した対策講座が始まりました。5月最終週から7月第2週までの各土曜日、本学の卒業生を対象とした教員採用試験対策講座を開講しています。午前中は教職教養を中心に筆答試験対策、午後は面接や模擬授業の指導を受け、集中的にスキルアップを目指しています。第2回目になる「先生になろう!応援合宿」の説明会を開催しましたが、昨年度の倍以上の学生の参加がありました(3日)。5階センター室では今年度から定期購読を開始した雑誌や新聞の開架を始めています。またセンター室を自習室として全日開放し、来室者には来室ノートへの記名をお願いしています。授業の空きコマを利用して来室され、資料などを閲覧する学生が徐々に増えています(谷村綾子講師)。



キャンパスライフ

学生たちの課外活動は、学部学科の枠を超えた交流の場。今回は、普段直接目にする事の少ない学生たちの活動の一部を紹介していただきます。

バレーボール部



部が思い切つて部活動に取り組める環境に恵まれているのは友達、教職員、学校関係、監督そして保護者などたくさんの方々の支援があるからです。感謝の気持ちを胸にチーム一団となり、勝利という形で恩返ししたいです。これからもバレーボール部の応援をよろしくお願いします。

バレーボール部は部員25人で活動をしています。月曜日以外は毎日3〜4時間程体育館で練習をしています。今季行われた関西大学バレーボール連盟女子1部春季リーグ戦は5位という悔しい結果で終わりました。今季リーグ戦を終え、現在は6月26日から神戸で行われる西日本インカレに向けて、優勝を目標にして練習に取り組んでいます。

私たちは二つの大会でどうすれば勝てるのか、勝つためには何が必要なのか、全員が何をすべきなのかを考えて行い、そして最後の大会になる12月の全日本インカレは、1年の総仕上げとして前回の戦績よりも一つ上へいけるように日々努力をしています。最後になりましたが、私たちバレーボール

ソフトテニス部



ソフトテニス部は、現在17名で活動しています。個々で目標を決め、それを達成したり向上したりできるよう、週に6日間、土日は1日練習に取り組んでいます。今年の戦績は、関西春季リーグで、1部リーグ3位入賞という結果を取め、今シーズンの良いスタートを切る事ができました。関西ダブルスでは、4ペア、シングルスでは2枠インカレ出場権を獲得しました。

日々練習を積み重ね、試合で練習の成果を発揮できるよう、1人が意識を高く持ち、練習しています。1人1人の向上がチームの質良くし、チーム一丸となり戦う楽しさや共感し合える喜びをととても感じる事ができます。たくさんの方のおかげで部活動ができていことに感謝し、応援してもらえようなチームでありたいと思います。いつも明るく、前向きで、周りへの気配りを忘れず、頑張っていきたいです。

卓球部



私たち卓球部は創立4年目の強化クラブです。部員数は8名、練習は体育館において平日18時半〜21時、祝日10時〜13時または10時〜16時、学業も大変忙しく時間の限られた環境の中で、一生懸命練習に励んでおります。

私たちが卓球部は創立4年目の強化クラブです。部員数は8名、練習は体育館において平日18時半〜21時、祝日10時〜13時または10時〜16時、学業も大変忙しく時間の限られた環境の中で、一生懸命練習に励んでおります。

学祭実行委員会

今年度の大学祭は、平成26年10月25日(土)、26日(日)に開催されます。今年のテーマは「コパノピース〜みんなで一緒に〜」に決定しました。本学の学生が主体となり、地域住民の方や他大学の方と一緒に大学祭を盛り上げたいという意味を込めてこのテーマになりました。

千里金蘭大学 学報 (第7号)

発行 2014(平成26)年7月18日(金)
〒565-0873 大阪府吹田市藤白台5-25-1
千里金蘭大学学報編集委員会
Tel 06-6872-0673(代)

大学Web <http://www.kinran.ac.jp/>
携帯サイト <http://www.kinran.ac.jp/mb/>
公式Twitter <https://twitter.com/SenriKinranUniv>
受験生応援サイト <http://www.kinran.ac.jp/cheer/>
受験生応援ブログ <http://www.kinran.ac.jp/cheer/blog/>

編集後記

まもなく前期の授業も終了、試験を乗り切れば夏休み。体調管理に気をつけて、有意義な休暇をお過ごしください。次回の学報は、10月15日発行予定です。ご意見などありましたら、編集委員会までお寄せください(て)。

くいやすパーボールすくいなどの緑日ブーイスも出店します。金蘭カフェ、緑日ブーイスのお手伝いをして頂ける方を大募集中です。模擬店、金蘭コンテスト参加者も大募集しています。興味がある方は学生サポーター課をお訪ねください。学生時代の思い出として、大学祭を一緒に盛り上げていきましょう!!お友達も誘って、大学祭にぜひ遊びに来てくださ